

理科

理科について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

選定の観点

- 1 学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。
- 2 習得した知識及び技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。
- 3 生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいように工夫・配慮されていること。
- 4 自然の事物・現象について、生徒が質的・量的な関係や時間的・空間的な関係等の科学的な視点で捉え、比較したり、関連付けたりするなど、理科の見方・考え方を働かせながら、科学的に探究しようとする態度や生命を尊重し環境の保全に寄与しようとする態度を身に付けられるとともに、見通しをもって粘り強く科学的に探究する活動が適切に取り上げられていること。
- 5 日常生活と関連付けながら、生徒が自然を敬い、自然事象に進んで関わり、科学することの面白さや有用性に気付くとともに、観察・実験を通して身の回りの安全や環境を意識し、生涯を通じて理科を学ぶ意欲が持てるよう工夫・配慮がなされていること。
- 6 生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。
- 7 系統的・発展的に学習しやすい単元構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。
- 8 表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

理科

調査研究の結果の概要

■東京書籍「新編 新しい科学1」「新編 新しい科学2」「新編 新しい科学3」

「これまでに学んだこと」として、小学校や中学校での既習事項が単元冒頭や各節に掲載されており、学習のつながりを意識して進めることができる。また、「ここがポイント」の欄に、公式や重要事項が取り上げられており、生徒が学習を進める中で確認しやすい工夫がされている。

観察・実験のページには詳細な留意事項とその理由が6種類の「安全のための注意」マークと共に掲載され、注意すべきことが一目で分かるようになっている。

各節では「活用 学びをいかして考えよう」として、各節に関連する活用課題を提示し、また、単元末の「活用問題」では、問題発見・解決的な課題が用意されており、習得した知識及び技能を活用しながら自らの考えを説明できるよう工夫されている。

また、探究の流れが「問題発見」、「課題の設定」、「課題に対する仮説の設定」、「構想」、「観察・実験」、「分析・解釈、検討・改善」、「課題の結論」、「探究の振り返り・活用」といった8つのステップで明示されているとともに、該当ページの学びが探究の過程のどこに位置付けられているのかが分かるよう「学びのフローチャート」が示されている。さらに、探究の流れを細かく設定した「じっくり探究」の節がほとんどの単元で設けられており、探究の仕方を主体的に身に付けることができる構成となっており、優れた工夫が見られる。

日常生活や実社会と理科のつながりを意識したコラムが多数掲載されるとともに、巻頭の「科学の本だな」で関連書籍を紹介したり、マンガを活用した思考を促すページがあったりするなど、生徒の興味を引き、科学の面白さを感じることができるよう工夫されている。さらに、「学びを生活や社会に広げよう」では、興味・関心だけでなく深い学びにつながる問いが設定されており、優れている。

■大日本図書「理科の世界 1」「理科の世界 2」「理科の世界 3」

章ごとに確認問題が設定され、各単元末には「まとめ」として、学習した内容をキーワードから振り返ることができる構成となっている。また、「単元末問題」、「読解力問題」を掲載し、生徒が段階的に基礎的・基本的な知識及び技能を習得できるよう工夫されている。

つまづきやすい問題については「例題」を示し、丁寧に説明しているとともに、繰り返し取り組み、学習内容が定着できるよう「演習」が掲載されている。また、各単元冒頭に小学校等でこれまで学習した既習事項とこれから学習することについて、写真やイラストと共に分かりやすく示されており、よく工夫されている。

観察・実験のページには「注意」マークと共に注意すべき事柄の記載があり、巻末には取り扱いに注意すべき物質がまとめられた表が掲載されている。

また、巻頭の「理科の学習の進め方」において、探究活動の流れが示され、各ページではそれぞれの学習課題が大きく示されていることで、課題を追究する学習の流れが分かりやすいよう工夫されている。さらに、単元末に「探究活動」を設定し、科学的に探究するための学習過程が提示されており、探究的な学習が進むよう工夫されている。

観察・実験では「結果から考えよう」を設定し、考察する視点を示しており、生徒が理科の見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。

随所に掲載されている「くらしの中の理科」や「professional」において、くらしと農業の関係など、生徒が実社会と学習内容のつながりを意識できるような内容が掲載されており、理科への興味をもたせるだけでなく、その有用性に気付かせるよう工夫されている。

■学校図書「中学校 科学1」「中学校 科学2」「中学校 科学3」

「ふり返ろう・つなげよう」では単元の冒頭に既習事項を確認できるよう工夫されているが、全体を通して指導者や生徒のイラストによる用語の説明や観察・実験結果の考え方が示されている説明の文章が長く明瞭でないため、分かりにくい。

観察・実験のページには「注意！！」マークと共に注意すべき事柄が記載されている。また、観察・実験等の後に適宜「探究を深める」が設けられ、学んだことを活用し、次の学習に生かす構成となっており工夫されている。また、巻末の「思考をさらに深める」では全国学力・学習状況調査や高校入試の問題を掲載し、知識及び技能の活用が図られている。

巻頭の「どうする、探究の進め方」では、探究の流れを10のステップで示しており、観察・実験を探究の過程の中に位置付けた上で、探究活動で得た新たな問題を「次の気づき」とし、次の探究につながっていくという、探究の過程の連続性を示していることから、生徒が主体的に学習する意義と方法を理解できるよう、よく工夫された構成になっている。また、探究の過程では、観察・実験に関わる、方法や結果、考察のステップに「ポイント」として、探究する内容に関わる理科の見方・考え方を示しており、考察する際に、結果を科学的に分析・解釈することができるよう工夫されている。

巻末に「補充資料」として、科学を学ぶ面白さやその有用性を意識できるような内容が掲載されており工夫されているが、巻末にあるため、学習内容と関連付けにくく授業を展開しづらい。また、災害や減災に関するコラムや資料の掲載や、博物館や科学館などの関連施設に関する紹介箇所は少ない。

■教育出版「自然の探究 中学理科 1」「自然の探究 中学理科 2」 「自然の探究 中学理科 3」

つまずきやすい箇所には例題が設けられていたり、随所に掲載されている「思い出そう」では、小学校での既習事項が写真や図を用いて具体的に示され、さらに文章の流れの中に掲載されており、学習の流れの中で基本事項の確認がしやすい優れた工夫がされている。

観察・実験のページには「！注意」マークと共に、注意すべき事柄が詳しく記載されている。

単元内に「活用しよう」が設定されているが、学習内容を説明するような内容も多く、習得した知識及び技能の活用を展開しづらい。また、単元末には「活用問題」が設定され、会話文の形式が用いられているものもあるが、学んだ内容の復習の要素が強く、活用を促す工夫としては弱い。

各単元で1か所程度、巻頭の「探究の進め方」に沿った学習が効果的な節を「疑問から探究してみよう」と設定し、効果的かつ効率よく、探究の流れが身に付くよう工夫されている。また、該当ページには、ページの淵に色が付けられており、見やすくなっている。キャラクターの会話内容に理科の見方・考え方を働かせるヒントを示すことで、生徒が理科の見方・考え方を働かせながら課題の設定、仮説や計画を立てられるよう工夫されている。

随所に掲載されている「ハローサイエンス」では、身の回りの事象と理科の関連を紹介しており、理科への関心を高め、発展的な学習を促す話題が掲載されていることで、生徒が科学の面白

さやその有用性に気付くことができるよう工夫されている。自然災害については、全学年で防災、減災の視点で対話的な活動を取り入れた章が設けられるなど、身の回りの安全や環境への関心を高められるようよく工夫されている。

■新興出版社啓林館「未来へ広がるサイエンス1」「未来へ広がるサイエンス2」
「未来へ広がるサイエンス3」

章の導入の「つながる学び」で既存の知識が写真や図と共に示されている。また「なるほど」のコーナーでは生徒がつまずきやすい箇所や可視化しにくい科学現象について、図等を使って丁寧に説明され、さらに、考え方が示されている「例題」を通して基礎・基本の確実な習得ができるよう優れた工夫がされている。

資料「実験を正しく安全に進めるために」では、加熱器具や薬品の取扱いについて詳しく記載され、観察・実験のページには「！」マークと共に注意事項が詳細に記載されている。

単元内の随所に「Action活用してみよう」や「考えてみよう」が設定され、単元末にも「力だめし」として活用問題が多くの場合で用意されており、習得した知識及び技能の活用ができるようよく工夫されている。さらに、いずれも身近なことに関する内容や会話文を用いており、優れている。

巻頭の「探究とは」では、探究の流れを「課題の把握」、「課題の追究」、「課題の解決」と整理した図を掲載するとともに、イラストを用いて探究の事例を示している。また、「探Qシート」を使って探究活動の振り返りができ、主体的に探究する力が育成できるよう工夫されている。また実験と同じページ右下に「探究の振り返り」のコーナーを設け、探究の過程を確認できることや、巻末には探究の過程のチェックリストと、よくあるつまずきへのヒントを掲載し、探究の各段階を振り返ることができるよう優れた工夫がされている。さらに、「部活ラボ」、「お料理ラボ」など、学習内容がどのように日常生活や実社会と結び付いていたり、活用できるのかが分かるようなコラムを多数掲載している。また、透明標本などの美しい写真が掲載されており、生徒の興味を引き、科学の美しさを感じることができるよう工夫されており、優れている。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

選定の観点		選定の視点	東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	啓林館
1	学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。	1 基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた工夫	◎	○	△	○	◎
		2 指導事項(学習のめあてや振り返り活動等)の明示	○	○	○	○	○
		3 用語・語句の取り上げ方や説明・注釈などに関する工夫	○	◎	△	◎	◎
2	習得した知識及び技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。	1 課題を追究したり解決したりする学習の進め方の提示	○	○	○	○	○
		2 習得した知識及び技能の活用を促す工夫	○	○	○	△	◎
		3 説明したり議論したりするなどの言語活動を充実する工夫	○	○	△	○	○
3	生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。	1 探究意欲を高め、主体的・対話的に学ぶための工夫	○	○	○	○	○
		2 発展的な学習活動につながる工夫	○	○	○	○	○
		3 ICT機器を活用するなど、個別最適な学びと協働的な学びを展開するための工夫	○	○	○	○	◎
4	自然の事物・現象について、生徒が質的・量的な関係や時間的・空間的な関係等の科学的な視点で捉え、比較したり、関連付けたりするなど、理科の見方・考え方を働かせながら、科学的に探究しようとする態度や生命を尊重し環境の保全に寄与しようとする態度を身に付けられるとともに、見通しをもって粘り強く科学的に探究する活動が適切に取り上げられていること。	1 科学的に探究するための学習過程の工夫	◎	○	◎	○	◎
		2 情報の収集・読み取り、科学的な視点で捉え考察するための工夫	○	○	○	○	○
		3 生命尊重や環境保全に関する記述	○	◎	○	○	○
5	日常生活と関連付けながら、生徒が自然を敬い、自然事象に進んで関わり、科学することの面白さや有用性に気付くとともに、観察・実験を通して身の回りの安全や環境を意識し、生涯を通じて理科を学ぶ意欲が持てるよう工夫・配慮がなされていること。	1 科学学習の面白さや有用性に気付くための工夫	◎	○	△	○	◎
		2 身の回りの安全や環境を意識できるための観察・実験の工夫	◎	○	△	◎	◎
		3 博物館や科学館などとの連携の工夫	○	○	△	○	○
6	生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的な人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。	1 人権教育の推進	○	○	○	○	○
		2 道徳教育の推進	○	○	○	○	○
7	系統的・発展的に学習しやすい単元構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。	1 単元構成の系統性・発展性	○	○	○	○	○
		2 他教科や教育課題等との関連	○	○	○	○	○
		3 他校種との接続	○	○	○	○	○
		4 家庭・地域との連携	○	○	○	△	○
8	表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。	1 文字や写真、図表等の適切さ、正確性、使いやすさ	○	○	△	○	○
		2 ユニバーサルデザインの視点	○	○	○	○	○
		3 装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫	○	○	○	○	○
		4 用紙、インク等の環境面への配慮	○	○	○	○	○

【理科】観点別資料

【選定の観点1】

学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	2 東書	4 大日本	11 学図	17 教出	61 啓林館
	<p>○各章末に学んだことが確認できる問題を示し、また各単元末に「学習内容の整理」として、用語の確認ができるページを設け、それに続く「確かめ問題」、「活用問題」で段階を追って問題を解く構成になっており、生徒がこれまでの学習を繰り返し確認し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得できるよう優れた工夫がされている。</p> <p>○各章の冒頭に章全体を通した問いが示された上で各節の構成が、導入「問題発見レッツスタート！」と「？」として学習課題が示された後、課題設定の手順、観察・実験の活動、考察のポイントが示され、最後に「！」として自分の考えをまとめるという流れとなっており、科学的な探究方法を理解しやすいよう工夫されている。</p> <p>○観察・実験のページには詳細な留意事項とその理由が6種類の「安全のための注意」マークと共に掲載され、注意すべきことが一目で分かるようになっている。また、「これまでに学んだこと」として、小学校や中学校での既習事項が単元冒頭や各節に掲載されている。「ここがポイント」の欄には、公式や重要事項が取り上げられており、生徒が例題や学習を進める中で確認しやすい工夫がされている。</p>	<p>○章ごとに確認問題が設定され、各単元末には「まとめ」として、学習した内容をキーワードから振り返ることができる構成となっている。また、「単元末問題」、「読解力問題」を掲載し、生徒が段階的に基礎的・基本的な知識及び技能を習得できるよう工夫されている。</p> <p>○単元の始めに、各章を通して考える問いを示し、節ごとの導入場面で学習課題を明示していることに加え、観察・実験の手順、結果の整理と例、結果から分かることを掲載するなど、課題の設定から学習の振り返りまで、探究する学習過程を生徒が理解しやすい工夫がされている。</p> <p>○観察・実験のページには「注意」マークと共に注意すべき事柄の記載があり、巻末には取り扱いに注意すべき物質がまとめられた表が掲載されている。つまずきやすい問題については「例題」を示し、丁寧に説明しているとともに、繰り返し取り組み、学習内容が定着できるよう「演習」が掲載されている。また、各単元冒頭に小学校等でこれまで学習した既習事項とこれから学習することについて、写真やイラストと共に分かりやすく示されており、よく工夫されている。</p>	<p>○単元末の「用語を覚える」では基本的な用語の確認ができるが、文章の中に用語が掲載されているため分かりにくい。また「基本問題に慣れる」で学習内容の定着を図る問題が掲載されているが、問題数が少なく、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る工夫が弱い。2・3年生巻末の「読解力強化問題」は穴埋めや選択肢が多く、知識を活用しづらい。</p> <p>○単元の始めに「学びのあしあと」で単元を通して考える課題、「ふり返ろう・つなげよう」で既習事項、「Can-Do List」でその単元の目標が掲載されており、また、各節で「この時間の課題」、「まとめ」が簡潔に示され、生徒にとって学習の流れが分かりやすいように工夫されている。</p> <p>○観察・実験のページには「注意！！」マークと共に注意すべき事柄が記載されている。「ふり返ろう・つなげよう」では単元の冒頭に既習事項を確認できるよう工夫がされているが、全体を通して指導者や生徒のイラストによる用語の説明や観察・実験結果の考え方が示されている説明の文章が長く明瞭でないため、分かりにくい。</p>	<p>○節末などの学習のまとめりに「要点をチェック」とその参照ページを示し、各単元末に「要点と重要用語の整理」、「基本問題」、「活用問題」、巻末に「学年末総合問題」が掲載されるなど、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能を習得できる工夫がされている。</p> <p>○単元冒頭の「学んでいくこと」や各章の導入の「これまでの学習」で、既習事項とのつながりを示した上で、「課題」と「結論」を明確に示し、そこに至る仮説、計画、観察・実験の結果、考察の流れが分かりやすく提示されることで、生徒が科学的な学習過程を理解しやすいよう工夫されている。</p> <p>○観察・実験のページには「！注意」マークと共に、注意すべき事柄が詳しく記載されている。つまずきやすい箇所には例題が設けられている。また、随所に掲載されている「思い出そう」では、小学校での既習事項が写真や図を用いて具体的に示され、さらに文章の流れの中に掲載されており、学習の流れの中で基本事項の確認がしやすい優れた工夫がされている。</p>	<p>○学習内容の定着を確認する問題として、各章末には「用語の確認」、「この章でたいせつな考え方」が、単元末には「学習のまとめ」、「力だめし」が設定されており、基本的な用語や概念を確認しながら、身に付けたことを活用できる構成となっており、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能を習得できるよう優れた工夫がされている。</p> <p>○単元の導入の「学ぶ前にトライ！」で単元を貫く問いが設定され、生徒が見通しをもって学習できるように構成されている。また、観察・実験の場面において、課題、計画、考察、まとめ・振り返りと探究の過程を明確に示し、探究的な学習を繰り返す工夫がされている。</p> <p>○資料「実験を正しく安全に進めるために」では、加熱器具や薬品の取扱いについて詳しく記載され、観察・実験のページには「！」マークと共に注意事項が詳細に記載されている。また章の導入の「つながる学び」で既得の知識が写真や図と共に示されていたり、「なるほど」のコーナーでは生徒がつまずきやすい箇所や可視化しにくい科学現象について図等を用いた丁寧な説明があり、考え方が示されている「例題」を通して基礎・基本の確実な習得ができるよう優れた工夫がされている。</p>

【選定の観点2】

習得した知識及び技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	2 東書	4 大日本	11 学図	17 教出	61 啓林館
	<p>○各節の始めに問いを示した上で、「仮説」、「実験」、「分析解釈」のように探究の流れが分かりやすく示されており、節全体で探究的な学習が進むよう工夫されている。また、巻頭には活動例を示しながら探究の流れを説明するページが設けられており、生徒が学習の進め方をいつでも確認できるよう工夫されている。</p> <p>○単元末の「活用問題」では、問題発見・解決的な課題が用意されており、習得した知識及び技能を活用しながら自らの考えを説明できるよう工夫されている。</p> <p>○考察の場面でキャラクターが会話するイラストを掲載したり、「理科の見方・考え方」マークを用いながら着目すべき点を具体的に示したりすることで、見方・考え方を働かせた説明や議論等の言語活動が充実するよう工夫されている。</p>	<p>○巻頭の「理科の学習の進め方」において、探究活動の流れが示され、各ページではそれぞれの学習課題が大きく示されていることで、課題を追究する学習の流れが分かりやすいよう工夫されている。また、単元末に「探究活動」を設定し、科学的に探究するための学習過程が提示されており、探究的な学習が進むよう工夫されている。</p> <p>○単元末に「読解力問題」が設定され、習得した知識及び技能を活用しながら自らの考えを説明できるよう工夫されている。</p> <p>○随所にキャラクターが会話するイラストを掲載することで、話し合い活動を促している。また、多様な考えを複数のキャラクターの吹き出しで示すことで考察や対話のヒントになるよう配慮されており、説明や議論等の言語活動が充実するよう工夫されている。</p>	<p>○探究活動の場面では「気づき」、「課題」、「仮説」、「計画」、「方法」、「結果」、「考察」のように、学習の進め方が分かりやすく提示されている。また、巻頭の「なぜ理科を学ぶの？」で探究の重要性に触れつつ、「どうする、探究の進め方」で探究活動の流れが示され、レポートの書き方を示すページでも、探究の重要性を生徒に実感させるよう工夫されている。</p> <p>○観察・実験等の後に適宜「探究を深める」が設けられ、学んだことを活用し、次の学習に生かす構成となっており工夫されている。また、巻末の「思考をさらに深める」では全国学力・学習状況調査や高校入試の問題を掲載し、知識及び技能の活用が図られている。</p> <p>○探究活動の場面では、多様な考えを複数のキャラクターの吹き出しで示しつつ、「この時間の見方」、「考え方」を示すことで見方・考え方を働かせた説明や議論等の言語活動が充実するよう工夫されているが、1ページに掲載されるキャラクターが多い箇所もあり、情報が多すぎて話し合う視点がやや定まりにくい。</p>	<p>○巻頭の「探究の進め方」において、探究活動の流れが示され、各ページではそれぞれの学習活動に「仮説」や「計画」などとアイコンが大きく示されていることで、課題を追究する方法が分かりやすいよう工夫されている。また、「探究の進め方」は折り込みになっており、生徒が学習の進め方をいつでも確認できるよう工夫されている。</p> <p>○単元内に「活用しよう」が設定されているが、学習内容を説明するような内容も多く、習得した知識及び技能の活用を展開しづらい。また、単元末には「活用問題」が設定され、会話文の形式が用いられているものもあるが、学んだ内容の復習の要素が強く、活用を促す工夫としては弱い。</p> <p>○多様な考えをキャラクターの会話形式で示すことで多面的・多角的に考察することや対話のヒントとし、説明や議論等の言語活動が充実するよう工夫されている。</p>	<p>○巻頭の「探究とは」や「この教科書の使い方」において、探究の意義や探究の流れを踏まえた教科書の読み方が示されており、探究的な課題を追究しやすいよう工夫されている。また、各単元に1つずつ設定されている「探Q実験・実習」では、仮説を立てたり、実験計画を行う等の学習過程を経て探究する力を育成できるよう工夫されている。</p> <p>○単元内の随所に「Action活用してみよう」や「考えてみよう」が設定され、単元末にも「力だめし」として活用問題が多く場面を用意されており、習得した知識及び技能の活用ができるよう、よく工夫されている。さらに、いずれも身近なことに関する内容や会話文を用いており、優れている。</p> <p>○単元末の「みんなで探Qクラブ」では、キャラクター同士の会話イラストやキャラクターが視点を述べるイラストを掲載することで、説明や議論等の言語活動が充実するよう工夫されている。</p>

【選定の観点3】

生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。

発行者名	2 東書	4 大日本	11 学図	17 教出	61 啓林館
	<p>○適所に対話例が示され、対話的な学習を促すとともに、節の始めの「問題発見 レッツ スタート！」では生徒の身近な題材を取り上げ、生徒が自ら気づきを得たり、身の回りの事象について考える場面を多く設けることで、興味・関心を高め、主体的に取り組めるよう工夫がされている。</p> <p>○各節の終盤には「活用 学びをいかして考えよう」が設定されており、学習したことを活用し、学びを発展的に広げられるよう工夫されている。また、巻末の「学びを広げよう 自由研究」では、学んだことを発展させて行う自由研究のテーマ例が紹介されており、生徒が課題探究の発展的な取組に生かすことができるよう工夫されている。</p> <p>○巻頭の「情報収集のしかた」では、インターネット検索が例示されており、また、端末を活用しながら議論する生徒のイラストを掲載するなど、ICT機器の活用に配慮されている。</p>	<p>○単元の導入や各章の導入に、学習課題に関連する写真や図が掲載されるとともに、解決に至る手順や方法についての視点が示され、主体的な学びを促すよう工夫されている。また、観察・実験の場面では、キャラクターなどによる会話や話し合い、発表の場面を掲載することで、生徒が形態の異なる対話的な学習が可能となるよう工夫されている。</p> <p>○単元末の「探究活動」では、問題解決を通して、単元で身に付けた科学的な見方・考え方がさらに深まるよう課題が設定されており、また、巻末には「自由研究にチャレンジしよう！」として、複数の実験や観察の例が紹介されており、発展的な学習活動につながる工夫がされている。</p> <p>○単元末の「探究活動」では、キャラクターによる会話例が掲載されており、協働的に学習する態度の育成ができるよう配慮されており、また、ウェブサイトの活用等、ICT機器の活用が紹介されている。</p>	<p>○随所に探究活動が設定されており、「気づき」、「課題設定」、「仮説」、「計画」、「観察・実験」、「結果」、「考察」等の流れに沿って構成され、見通しをもって主体的に探究活動が進められるよう工夫されている。また、探究の過程では、会話例が示されており、生徒同士の対話を促す工夫がなされている。さらに、コラム「理路整然」や巻末の「補充資料」には、理科の学習と日常生活や社会との関連が多数取り上げられており、生徒の探究意欲が高まるよう工夫されている。</p> <p>○「発展」として、発展的な学習内容が適宜記載されていたり、巻末の「補充資料」では学習内容に関連する資料が掲載されるなど、発展的な学習活動につながるよう工夫されている。</p> <p>○発表の仕方を解説するコラムでは、インターネットで得た情報を引用する際の留意事項を詳しく説明したり、発表資料の作成には積極的にパソコンを使うことを推奨したりするなど、個別最適な学びと協働的な学びの展開におけるICT機器の活用を促す工夫がされている。</p>	<p>○巻頭に「探究の進め方」のページを設定し、探究活動の流れを詳細に説明するとともに、各探究活動の場面では課題の把握・追及・解決の過程が分かりやすいよう、探究活動に関するアイコンが見やすく付されており、生徒が主体的に探究活動を進められるよう工夫されている。また、随所に掲載されているコラム「ハローサイエンス」では、理科の学習が日常生活や社会で活用されていることに触れられており、探究意欲を高める工夫がされている。</p> <p>○巻末の「自由研究」では、学習事項に関するより専門的な内容が取り上げられており、生徒の発展的な学習につながるように工夫されている。</p> <p>○単元内の「調べよう」や巻末の「自由研究」では情報をインターネットで集めることが例示されており、ICT機器の活用に配慮されている。</p>	<p>○章の導入では、生徒の興味を高める写真や資料が示され、生徒が探究意欲を高めつつ、主体的に問題を見いだせる構成となっており、工夫が見られる。また、「探Q実験・実習」といった探究活動の場面では、話し合い活動も交えながら課題を解決する一連の流れが分かりやすく示されており、生徒が主体的・対話的に探究学習を進めやすいよう工夫されている。</p> <p>○各節末の「Action活用してみよう」では、理科の知識や概念を日常生活に活用できる場面が設定されていたり、各科学コラムや「ひろがる世界」では、発展的な内容を掲載したりと、学習内容を活用し、発展的な学習に取り組みやすいよう工夫されている。</p> <p>○巻頭の「ICTの活用」では、インターネットで情報を収集する際の留意事項が見開きにわたって具体的に示されたり、単元内では、観察・実験を撮影しておくことが有効な場面において「ICTでトライ」のマークが付されたりするなど、ICT機器の活用を促す工夫され優れている。また、科学コラムでは個の特性や興味に応じた学習を広めたり深めたりする内容が充実しており、個別最適な学びの実現に向けた工夫がなされている。</p>

【選定の観点4】

自然の事物・現象について、生徒が質的・量的な関係や時間的・空間的な関係等の科学的な視点で捉え、比較したり、関連付けたりするなど、理科の見方・考え方を働かせながら、科学的に探究しようとする態度や生命を尊重し環境の保全に寄与しようとする態度を身に付けられるとともに、見通しをもって粘り強く科学的に探究する活動が適切に取り上げられていること。

発行者名				
2 東書	4 大日本	11 学図	17 教出	61 啓林館
<p>○探究の流れが、「問題発見」、「課題の設定」、「課題に対する仮説の設定」、「構想」、「観察・実験」、「分析・解釈、検討・改善」、「課題の結論」、「探究の振り返り・活用」といった8つのステップで明示されているとともに、ページの下部に探究の過程が見通せる「学びのフローチャート」を示し、色分けをすることで、該当ページの学びが探究の過程のどこに位置付けられているのかが分かるようよく工夫されている。さらに、探究の流れを細かく設定した「じっくり探究」の節がほとんどの単元で設けられており、探究の仕方を主体的に身に付けることができる構成になっており、優れた工夫が見られる。</p> <p>○探究の過程の随所に、理科の見方・考え方を学習内容に合わせて具体的な文章で示しており、生徒がどの理科の見方・考え方を働かせればよいか分かるよう工夫されている。また、観察・実験において「結果の見方」や「考察のポイント」を示し、どのように観察・実験の結果を分析・解釈すればよいか分かりやすく示されている。</p> <p>○読み物資料「私たちのSDGs」では、単元で学習した内容を通して、生命の尊重や環境保全について意識できるよう工夫されている。</p>	<p>○単元末に探究活動の事例を示し、生徒が主体的に探究活動に取り組めるよう工夫されている。また、学習のまとめごとに「問題を見つけよう」、「計画を立てよう」、「結果から考えよう」、「振り返ろう」とマークを用いて、科学的な探究の流れが示されている。</p> <p>○観察・実験で「結果から考えよう」を設定し、考察する視点を示しており、生徒が理科の見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。</p> <p>○環境や資源に関わる話題には「環境」マークが付され、地震や津波など様々な自然環境問題への興味を高める工夫がされている。また、メダカの観察においては、「素早く観察して、すぐに水槽に戻す」などと記載されており、生徒が生命の尊さを意識できる優れた工夫がされている。</p>	<p>○巻頭の「どうする、探究の進め方」では、探究の流れを10のステップで示しており、観察・実験を探究の過程の中に位置付けた上で、探究活動で得た新たな問題を「次の気づき」とし、次の探究につながっていくという、探究の過程の連続性を示していることから、生徒が主体的に学習する意義と方法を理解できるよう、よく工夫された構成になっている。</p> <p>○探究の過程では、観察・実験に関わる、方法や結果、考察のステップに「ポイント」として、探究する内容に関わる理科の見方・考え方を示しており、考察する際に、結果を科学的に分析・解釈することができるよう工夫されている。</p> <p>○生物について学習する単元の始めの「Can-Do List」では、学びに向かう目標として、観察する生物への配慮が取り上げられており、生命を尊重する態度が育めるよう工夫されている。また、「SDGsを意識して脱炭素社会へ」のページを全学年で設けるとともに、各単元の扉ページに、学習する内容に関連するSDGsのマークを示し、持続可能な社会の実現に向けて意識付けができるよう工夫されている。</p>	<p>○各単元で1か所程度、巻頭の「探究の進め方」に沿った学習が効果的な節を「疑問から探究してみよう」と設定し、効果的かつ効率よく、探究の流れが身に付くよう工夫されている。また、該当ページには、ページの淵に色が付けられており、見やすくなっている。</p> <p>○キャラクターの会話内容に理科の見方・考え方を働かせるヒントを示すことで、生徒が理科の見方・考え方を働かせながら課題の設定、仮説や計画を立てられるよう工夫されている。</p> <p>○「ハローサイエンス」のいくつかは、SDGsのマークを示した内容があり、環境保全に関する科学的な話題を掲載しており、生徒が積極的に生命尊重や環境保全に関する意識を高められるよう工夫されている。</p>	<p>○巻頭の「探究とは」では、探究の流れを「課題の把握」、「課題の追究」、「課題の解決」と整理した図を掲載するとともに、イラストを用いて探究の事例を示している。また、「探Q実験・実習」で使用する「探Qシート」を使って探究活動の振り返りができ、主体的に探究する力が育成できるよう工夫されている。また実験と同じページ右下に「探究のふり返し」のコーナーを設け、探究の過程を確認できることや、巻末には探究の過程のチェックリストと、よくあるつまづきへのヒントを掲載し、探究の各段階を振り返ることができるよう優れた工夫がされている。</p> <p>○観察・実験の考察の場面では、考察する際の理科の見方・考え方の視点がキャラクターの発言等で示されており、どのように結果を分析・解釈すればよいか分かるよう工夫されている。</p> <p>○単元内のSDGsに関連する部分にはマークが付されている。また、各学年の後見返りで、日本各地の科学技術を利用した取組を紹介するなど、生命尊重や環境保全への意識が高まるよう工夫されている。</p>

【選定の観点5】

日常生活と関連付けながら、生徒が自然を敬い、自然事象に進んで関わり、科学することの面白さや有用性に気付くとともに、観察・実験を通して身の回りの安全や環境を意識し、生涯を通じて理科を学ぶ意欲が持てるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	2 東書	4 大日本	11 学図	17 教出	61 啓林館
	<p>○「まちなか科学」、「お仕事図鑑」など日常生活や実社会と理科のつながりを意識したコラムが多数掲載されている。また、巻頭の「科学の本だな」という関連書籍を紹介するページや、マンガを活用した思考を促すページがあることも生徒の興味を引き、科学の面白さを感じることができるよう工夫されている。さらに、「学びを生活や社会に広げよう」では、興味・関心だけでなく深い学びにつながる問いが設定されており、優れている。</p> <p>○随所にある「防災特集」では、学習内容に関連した自然災害や身近な災害の危険や防災についての内容を、「私たちのSDGs」では、環境保全に関連した内容を多数掲載するなど、安全や環境への意識が高まるようによく工夫されている。</p> <p>○動物園、植物園、博物館、科学館など多くの関連施設が紹介され、興味・関心をもたせる工夫がされている。</p>	<p>○随所に掲載されている「暮らしの中の理科」や「professional」において、暮らしと農業の関係など、生徒が実社会と学習内容のつながりを意識できるような内容が掲載されており、理科への興味をもたせるだけでなく、その有用性に気付かせるよう工夫されている。</p> <p>○緊急地震速報、ハザードマップや災害時の対処例など、身近で考えやすい防災、減災の場面を取り上げるなど工夫されている。</p> <p>○博物館等の関連施設紹介数が最も多く、関連施設の説明が詳しく掲載されており、学習内容と関連付けやすく工夫されている。</p>	<p>○巻末に「補充資料」として、科学を学ぶ面白さやその有用性を意識できるような内容が掲載されており工夫されているが、巻末にあるため、学習内容と関連付けにくく授業を展開しづらい。</p> <p>○環境に関連したページでは、持続可能な開発目標であるSDGsを重点的に扱っており、脱炭素社会やカーボンニュートラルについて丁寧に説明されている。一方で、災害や減災に関連するコラムや資料の掲載は少ない。</p> <p>○博物館や科学館などの関連施設について、学習内容に関連したページで掲載する工夫はあるが、紹介する箇所が少なく、学習に活用しづらい。</p>	<p>○随所に掲載されている「ハローサイエンス」では、身の回りの事象と理科の関連を紹介しており、理科への関心を高め、発展的な学習を促す話題が掲載されていることで、生徒が科学の面白さやその有用性に気付くことができるよう工夫されている。</p> <p>○「ハローサイエンス」のいくつかで、自然災害や身近な災害に関するコラムが掲載されている。さらに、自然災害については、全学年で防災、減災の視点で対話的な活動を取り入れた章が設けられるなど、身の回りの安全や環境への関心を高められるようよく工夫されている。</p> <p>○巻末には博物館や科学館などの関連施設の紹介と共に、活用するための手立てが掲載されており、関連施設を利用することで学習内容を深められるように工夫されている。</p>	<p>○「部活ラボ」、「お料理ラボ」など、学習内容がどのように日常生活や実社会と結び付いていたり、活用できるのかが分かるようなコラムを多数掲載している。また、透明標本などの美しい写真が掲載されており、生徒の興味を引き、科学の美しさを感じることができるよう工夫されており、優れている。</p> <p>○SDGsマークが関連する資料に付されていたり、コラム「防災・減災ラボ」では自然災害に加え、身近な災害についても大きく掲載されており、自然環境や減災についての意識が高まるよう工夫され、優れている。</p> <p>○関連施設が学習内容に関連付けて適宜紹介されており、施設を活用しながら学習を深められるよう工夫されている。</p>

【選定の観点6】

生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。

発行者名				
2 東書	4 大日本	11 学図	17 教出	61 啓林館
<p>○生徒のイラストは男女同程度の頻度で同じ服装にするなど配慮されているとともに、外国にルーツをもつ生徒や車いすの生徒が活動する様子もあり、多様性や国際理解について工夫されている。振り仮名が多く付されており、日本語を母語としない生徒へも配慮されている。</p> <p>○生命尊重、自然環境、SDGsを取り上げるなど、道徳教育の推進につながるよう工夫されている。また、巻頭の「探究の流れを確認しよう」では、自然の真理を大切にしようとする態度や、観察・実験の場面等で生徒同士が互いに協力する姿が示されており、他者の意見を尊重する態度や協力の精神を培う工夫が見られる。</p>	<p>○図や写真、生徒のイラストなど性別に偏りが生じないように工夫されている。理科に関連する職業の紹介についても、性別が偏らないよう配慮されている。また、車いすなど障害のある方に関わる内容を取り上げており、生徒の人権教育の推進につながるよう工夫されている。</p> <p>○「日本を知る」マークが付された、学習に関連した日本の伝統やものづくりについて学べる資料が掲載されており工夫されている。また、関連単元以外にも様々な場面で自然愛護・生命尊重・環境教育につながる内容が取り扱われており、道徳教育の推進につながるよう工夫されている。</p>	<p>○人物の資料写真やイラストについては男女比が同じになるよう配慮されており、生徒、教師ともに男女が同等に登場するよう配慮されている。</p> <p>○コラム「理路整然」では、国内外の科学者や社会に役立つ科学研究を多数紹介し、グローバル人材育成の基礎を培うことや、公共の精神や社会参加の意識を高めるなど、道徳教育の推進につながるよう工夫されている。</p>	<p>○男女が平等に協働して学習に臨んでいる姿を常に意識した表現がされ、生徒のキャラクターが意見を述べる場面では、性差による発言の違いが生じないよう配慮され、生徒の人権教育の推進につながるよう工夫されている。</p> <p>○生きている生物ではなく、食材を使った観察を扱うなど、生命尊重の態度が養われるよう配慮されている。「ハローサイエンス」では、科学の発展に寄与した国内外の科学者を紹介するなど、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことにつながる工夫がされている。</p>	<p>○生徒のイラストは男女同程度の頻度で、外国にルーツをもつ生徒も登場している。服装にはネクタイとリボンがあることで、多様性が認められるよう配慮されている。義足や食事支援ロボットなどについても取り上げられており、人権教育の推進につながる工夫がされている。</p> <p>○単元末の「ひろがる世界」などで社会に役立つ研究や仕事、多くの動植物や自然環境が紹介され、社会貢献や自然の共通性・多様性と豊かさに目を向けられるよう工夫されている。SDGsマークを付すことで持続可能な社会への意識が高まるよう工夫されている。また、観察・実験の場面では生徒同士が互いに協力する姿が示されており、他者の意見を尊重する態度や協力の精神を培う工夫が見られる。</p>

【選定の観点7】

系統的・発展的に学習しやすい単元構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。

発行者名	2 東書	4 大日本	11 学図	17 教出	61 啓林館
	<p>○各単元の指導順序を入れ替えて指導しても支障がないように、関連する学習内容の掲載箇所を本文中に示し、多様な指導計画にも対応できるよう配慮されている。また、巻末に全ての節の課題に対する結論の例が一覧で示されていることで、各節のつながりを意識できるよう工夫されている。</p> <p>○他教科で学習する理科と関連の深い内容を教科関連マークで示し、生徒の学習内容のより深い理解につながるよう工夫されている。</p> <p>○単元冒頭や本文側注等に「これまでに学んだこと」を配置し、小学校の内容との関連が示されている。また、高等学校につながる内容を「発展」として取り上げ、関連を図っている。</p> <p>○「社会につながる科学」、「お仕事図鑑」といったコラムや「学びを社会につなげよう」という項目を設け、日常生活や社会との関連を意識付けるよう工夫されている。また、裏表紙の「保護者の皆様へ」には、理科の学習を生徒と共有して欲しいというメッセージが掲載されている。</p>	<p>○各領域において3年間を見通した系統性のある構成となっている。また、学年によって理科室の使用が重ならないよう、学習が円滑に進むよう配慮されている。</p> <p>○単元末の「つながる×Science Press」や各節内の随所に掲載されている「つながる」、巻末の「つながる 理科の学習と算数・数学」等において、他教科との関わりが意識できるよう工夫されている。</p> <p>○単元の冒頭の「これまでに学習したこと」や章ごとの「思い出そう」などにおいて、小学校の学習内容を振り返ることで、生徒がこれまでの学習と関連させて学習が進められるよう工夫されている。また、高等学校につながる内容を「発展」として取り上げ、関連を図っている。</p> <p>○「Professional」など職業と関連する資料や「くらしの中の理科」や「Science Press」など、地域との関連を意識できる資料や日常生活や社会における話題と関連する内容を取り上げている。また、裏表紙に保護者へのメッセージが掲載されている。</p>	<p>○各単元の内容は全て3章に整理されており、全学年を通じて学習内容の区切りが分かりやすくなっている。</p> <p>○本文内容と関連する他教科の既習事項について、キャラクターの吹き出しや「つながり・数学」で示し、意識できるよう工夫されている。</p> <p>○単元の始めの「ふり返ろう・つなげよう」で、小学校での既習事項を系統的に復習できるよう工夫されている。また、高等学校につながる発展的な学習内容については「発展」として示し、生徒の実情に合わせて取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>○巻末の補充資料や、後ろ見返しの「学習内容と仕事」など、職業や日常生活と理科の関連を示す資料や話題が取り上げられていることに加え、裏表紙には家庭でも話題となるよう、保護者へのメッセージが掲載されている。</p>	<p>○既習の基礎技能など、汎用的なものは巻末にまとめられており、単元の組み替えを行う際にも、使用しやすい構成となっている。</p> <p>○適宜「ブリッジ算数」、「ブリッジ国語」などを設け、関連する既習事項を掲載するとともに、特に算数科・数学科との関連については巻末資料「理科で使う算数・数学」に豊富に掲載するなど他教科との関連について配慮されている。</p> <p>○単元冒頭の「学んでいくこと」や各章の導入の「これまでの学習」、単元内の「思い出そう」で小学校を含めた学習内容の系統や関連する既習内容が示されたり、高等学校で学習する内容について、「発展」として紹介されるなど、他校種との接続が図られている。</p> <p>○「ハローサイエンス」で日常生活と関わる科学的な話題を紹介したり、巻頭において各分野で活躍している専門家を紹介したりするなど、学習内容と身の回りの事象との関係を意識できるよう工夫されている。一方、家庭との連携が意識された保護者へのメッセージ等は特に記載がない。</p>	<p>○どの単元から始めても支障がないよう構成されており、地域の気候などに合わせて、同一学年内での単元の順序を入れ替えることができるよう工夫されている。</p> <p>○算数科、数学科との連携を重視し、巻末に「理科でよく使う算数・数学」、本文中に「算数・数学と関連」の項目を設けることに加え、それ以外の教科についても「(他教科)との関連」として、必要な場面で丁寧に示されている。</p> <p>○章の導入に「つながる学び」として、小学校理科の内容や既習内容を確認した上で、新たな学習に入ることができるよう工夫されている。また、「発展 高校化学へ」では高等学校での学習内容に触れるなど、高等学校との接続にも配慮されている。</p> <p>○日常生活や社会との関連を取り上げた、「お料理ラボ」、「お仕事ラボ」などのコラムが掲載されたり、裏表紙に保護者へのメッセージが掲載されていたりするなど、理科と家庭・社会とのつながりをより身近に感じることができるよう工夫されている。</p>

【選定の観点8】

表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名				
2 東書	4 大日本	11 学図	17 教出	61 啓林館
<p>○発達段階に合わせて本文の側注幅を変え、また、色覚に関する個人差を踏まえ、色だけで情報を区別しないようにする、振り仮名が適切に付されているなど、読むことへの配慮が特にされている。AB版が採用され、ゆとりのある紙面構成となるよう工夫されている。</p> <p>○本文などの主要部分にはユニバーサルデザインフォントが使用されている。各項目の見出しには様々なフォントが用いられ、変化に富んだ編成にする工夫がされている。</p> <p>○製本は堅牢で、長期間の使用に耐えられるよう工夫されている。表紙は汚れにくくするための防水効果や強度を高める加工が採用されるなど工夫がされている。</p> <p>○環境への影響を考慮し、再生紙や植物油インキが使用され、グリーンプリンティング認定工場で印刷されている。</p>	<p>○発達段階に合わせて本文の文字の大きさ等が変えられている。また、各見開きページの初出の漢字に振り仮名が付されるなど、読むことへの配慮がある。B5版で扱いやすいよう工夫されている。</p> <p>○ユニバーサルデザインフォントが使用されている。また、紙面のデザインは専門家の監修を受け、カラーユニバーサルデザインの観点にも配慮され工夫されている。</p> <p>○製本は堅牢で、長期間の使用に耐えられるよう工夫されている。表紙は丈夫で汚れにくいコーティングが施される工夫がされている。</p> <p>○環境に配慮した紙と植物油インキが使用されるなど、化学物質に過敏な生徒への配慮がある。</p>	<p>○紙面上、振り仮名がやや少ない。AB版で写真や図が大きく、図版には薄い青色の地網を敷くなど工夫されているが、まとめや練習問題のページでは文字がやや小さい。</p> <p>○ユニバーサルデザインフォントが使用されている。また、専門家の指導を受け、色覚の個人差に問わず学習を進められるよう配色・デザインなど、工夫がされている。</p> <p>○製本は堅牢で、長期間の使用に耐えられるよう工夫がされている。</p> <p>○環境に配慮した紙や植物油インキが使用されるなど、環境やアレルギーに配慮されている。</p>	<p>○発達段階に合わせて、本文の文字の大きさ等が変えられるなど、小学校からの隔たりに生徒に感じさせない配慮があり、間隔も広く読みやすいよう工夫されている。振り仮名が適切に付され、重要語句は太い色文字で強調されている。AB版で資料も豊富である。</p> <p>○ユニバーサルデザインフォントが使用されるとともに、色覚の個人差に問わずより多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮した工夫がされている。</p> <p>○製本は堅牢で、長期間の使用に耐えられるよう工夫されている。表紙に特別な加工を施し、汚れにくく、耐久性が向上するよう配慮するなど工夫がされている。</p> <p>○再生紙や植物油インキが使用されるなど、環境への配慮がある。</p>	<p>○発達段階に合わせて、本文の文字の大きさ等が変えられるなど、小学校教科書からスムーズに移行できるような配慮があり、また、本文の幅が一定で短く、振り仮名も適切に付されている等、読みやすいよう工夫されている。AB版が採用されており、立体的に書かれた図版が多く、また鮮やかであり、見やすいよう工夫されている。</p> <p>○ユニバーサルデザインフォントが使用されるとともに、メディア・ユニバーサルデザインの観点から、個人の特性に関わらず、全ての生徒が試使用なく学習を進められるよう配色・デザインなどに工夫がされている。</p> <p>○製本は堅牢で、開きやすく強度も保てるあじろ綴じを採用しており、長期間の使用に耐えられるよう工夫がされている。</p> <p>○再生紙や植物油インキが使用されるなど、環境やアレルギーへの配慮がある。</p>